

書字文化

9月号



ホームページ <http://www.syobunkyo.org>

////////////////////////////////////

◇第8回全国書写書道総合大会 ひら・かきコンクール2段階発表・・・2

◇総合大会 中央審査会、優秀作品展示・交流会・・・・・・・・・・3

◇第1回中日友好青少年書画コンクール応募の用意を・・・・・・・・・・4

◇東アジア書教育コンソーシアムの第1回交流展、北千住で・・・・・・・・6

◇北山幼稚園で年長児の書道作品を展示・・・・・・・・・・7

◇夏の特訓・席書、オリセンで開催・・・・・・・・・・8

大平恵理書

令和

第8回全国書写書道総合大会

締め切りは9月16日（月）

第8回総合大会は、3つのコンクールのうち「ひらがな・かきかたコンクール」は7月26日に締め切られました。残る「全国学生展」（毛筆）と「全国硬筆コンクール」（硬筆）は夏休み明けの9月16日、大会事務局（書文協本部）必着で締め切られます。皆さん、奮って応募してください。

学生展には公募と席書の部があり、席書の部は9月8日（日）まで開催が認められています。夏休みに、各地で席書大会が盛んに開かれています。作品は公募の部と共にすべて大会事務局（書文協本部）に集められます。

中央審査会は9月23日に開催予定で、特別賞（全体の約1.5%）受賞者の名前は9月下旬に発表予定です。

ひら・かきコンは2段階発表

シングルエイジに限定しているこの大会は、文字書きの自信、自己肯定感の強化につながることを期待されています。この効果を高めるため、前回から審査結果の発表は本賞、特別賞の二段階発表としました。本賞（特選、金、銀、銅賞）はすべての応募者に副賞を添えて各賞が贈られるもので、締め切りからできるだけ時間が経たないうちに発表を、と二段階発表にしたものです。

本賞は賞状・副賞（メダルバッジ）すでに送付

本賞は賞状、副賞共に8月下旬には各団体に着くよう発送されています。

これも先般お知らせいたしましたが、本賞の副賞について子どもたちのマスコットになるもので、教室全体の一体感を強めるものをと、今回もメダルバッジ（写真）としました。写真は、左から特選（ホログラム製）、金、銀、銅賞



故事成語「燕雀（えんじゃく）いずくんぞ鴻鵠（こうこく）の志（こころざし）を知らんや」をイメージしたもので、子どもたちが鴻鵠の志（大志）を抱くよう、冠を被った伝説の大鳥、鳳凰（ほうおう）がペンと毛筆の二刀の上で羽ばたくデザインは前回と同じです。胸ポケットにクリップで留め、お友だちに見せることもできます。前回子どもたちに大変気に入っていただけました。

特別賞審査の中央審査会は 9/23

発表は 9 月下旬

特別賞は応募者の約 1.5 パーセントの人に授与されるもので、9 月 23 日、開催の総合大会中央審査会で特選の中から選ばれます。特選の中から優秀特選ベスト 1～10（準特別賞）を選び、中央委審査会での特別賞審査の対象とします。特別賞を授与された場合、申し込まれた記念アルバムの文言は特別賞対応になりますので心配はありません。

発表は 9 月下旬の予定です。審査会には書文協中央審査委員会（加藤東陽委員長）の各審査委員、書文協、専門委員の先生たちが参加します。

書文協では審査の透明性を高めるため、従来から審査会傍聴を希望する会員には中央審査委員会の了解を得て傍聴を許可しています。会員の方で傍聴を希望される方は事前に書文協にご連絡ください。

優秀作品展示・交流会は 11/3 中野ゼロホール

11 月 3 日に、東京・中野のゼロホールで優秀作品展示交流会が開かれる予定です。これまで浅草公会堂での展示交流会では「書写書道と学業の両立」をテーマに生徒の意見発表会を行いました。今年も同様に計画しています。大会応募者は誰でも参加できます。ぜひご参加ください。

硬筆記念アルバム製作のお知らせ

記念すべき作品を是非保存しておきたいとの要望が毎回大変多く寄せられており、大会事務局では出来るかぎりこれらのご要望にお応えできるよう、特別賞から銅賞までの入賞全作品を特製アルバムに組み入れて製作することとしています。ひらかきコンクールについての受付概要は以下の通りです。

希望者は先生が取りまとめお申し込み下さい。

◆ 代金 自筆作品・・・3, 950 円（税込）

複製作品・・・2, 950 円（税込） ※コピー作品を使用。複製品のみの注文は不可。

※アルバムには全てアルバム立てがセットで付きます。

◆ 写真サイズ 縦 7 cm×横 5 cmのサイズに納まる写真（こちらで切り取ります）

◆ 申込み〆切 令和元年 11 月 26 日（火）（生徒締切は 11 月 20 日）。

※団体ごとに取りまとめてお申し込みください。締め切り日後のご注文はお受けできません。

日中青少年書画交流コンクール開催へ 応募の用意を



首届中日青少年书画友好交流大赛
第1回中日青少年書画友好交流コンクール

2019年は日中青少年交流推進年です

日本と中国で推進年を合意し、その一環として同コンクールが行われます。主催は中国政府外文局人民中国雑誌社。日本での実施事務局はNPO法人日中文化交流促進会です。書文協は協力団体として同促進会を応援しています。

2 0 1 9



日中青少年交流推進年

日本側後援（申請中含む）

日中議員連盟

文部科学省、外務省

日中協会、日中友好会館、日中友好協会、日中経済協会、日中文化交流協会、日本国際貿易協会

朝日新聞社、産経新聞社、毎日新聞社、読売新聞社（順不同）

事務局ホームページに注意を！！

事務局の日中文化交流促進会では近く日本側出品者のためのホームページ

<http://www.yuukou.org>

を開設する予定です。以下に現在の実施の概要を記しますが、ホームページでのお知らせに注意してください。

締切りは 11 月 30 日、書は中学生以下は半紙、高校生以上は半切

日本側での実施要項は現在検討中の部分があり、今後動く可能性があります。締切りは 11 月 30 日、応募作品の規格は、書の場合は中学生以下は半紙、高校生以上は半切となります。

応募・審査・賞

応募資格年齢

6 歳から 22 歳を予定しています。

応募締切

日本側審査団は、劉洪友氏（同促進会理事長）を審査委員長とし書・画の両部門で構成。流派・社中にとらわれない厳正審査が行なわれます。

賞

☐ 日本地域の賞

金賞 3 人、銀賞 6 人、銅賞 10 人。優秀作品賞若干名。全員に参加証を検討中。

主の賞として、特等賞 1 人（無償で 6 日間、中日訪問団に加わって互いに訪問し合うイベントに参加）

☐ 全体賞

中日友好の賞 5 人、国家文化の賞 5 人。

希望者に中国訪問のチャンス

中国で授賞・展示のセレモニーが行われますが、日本からもできるだけ多くの人が参加できるように目下検討中です。

応募の仕方（作品の写真応募も）

送付方法

応募には（A）作品の写真を提出（B）現物を提出、の二つの方法があります。A、B に審査の差はなく、どちらでもいいのですが、中国では 1 次審査は A のみです。同コンクールでは将来的には日本でも 1 次審査は「写真審査」（同ホームページ参照して下さい。）とする方向ですので（A）方式に慣れてください。2 次審査に進んだ場合は実物を郵送（詳しくは大会ホームページを参照して下さい。（応募作品は原則的に主催者に帰属します）

日本での優秀作品展示及び交流展・・来春、銀座で予定

日中の優秀作品の展示・交流会を来年2月、東京・銀座の展示場で開催、中国から上位の賞を受賞した青少年が多数来日し、日本側の青少年と交流するイベント計画が進んでいます。詳細が決定次第、改めてお知らせします。

日本側事務局

NPO法人日中文化交流促進会（法人番号 1013305000729）

〒125-0062 東京都葛飾区青戸2-8-4 中国書法学院内

電話 03-3695-0700 FAX 03-3695-0712

協力 一般社団法人日本書字文化協会

東アジア書教育コンソーシアム動く 第1回日中韓書教育交流展開催

日本と中国、韓国の3か国の書教育に携わる人たちが「東アジア書教育コンソーシアム（共同事業体）を結成、8月19日から21日、足立区北千住駅前の千住ミルデス1番館10階で第1回日中韓書教育交流展―教育・研究・文化―を開きました。

東京学芸大学書道教育研究会、北京師範大学啓功書院、ソウル教育大学校瑞硯会が協働しているもので、中心となる学芸大学からは、共に書文協中央審査委員の長野秀章（学芸大学名誉教授）、加藤泰弘（学芸大学教授、付属世田谷中学校長）が責任者となっています。

この会は、先生や博士・修士課程の学生らが参加しています。20日は開幕式が行われ、筆会（席書）も開かれました。筆会には各国6人前後が参加。会場には各国の作品多数が飾られ、コンソーシアムの初会合は盛り上がりました。

韓国のハングルを含め、文字を書くという1点でつながるこのコンソーシアム。各国文化を背景にどのように盛り上がるか注目していきたいと思います。

北山幼稚園で年長児の書道作品を展示

毛筆の正課授業を取り入れている東京都府中市の北山幼稚園（山縣迪子園長）で8月23、24、25日に作品の展示会があり、年長児の作品約100点が張り出されました。「子どもたちにも伝統文化に触れさせたい」という山縣園長の要請を受けて、書文協は池田圭子教学参与を派遣して、月2回（1回120分。6グループに分けて20分ずつ指導）の授業を実施。今回でこの正課授業の受講者は5期目。筆を知らなかった園児らが仕上げた作品に保護者らも感心しきりでした。

年中の秋から始め、水書練習から見事に墨書

多くの保護者が展示会を参観。作品の前で記念写真を撮る親子が沢山いました。親は「同じ文字でも個性があるのね」「うちの子は確実に上達したな」などと話していました。秋になると、新たに年中児達がチャレンジを開始する予定です。

（張り出された作品。下に名前が横書きで自著されている）



（展示会ではいろいろな作品が展示された）



(水書マットに水で書かれた赤い「とり」の文字)

(水書で慣れたので墨書もきれいに)

猛暑の中、恒例の宿泊特訓

東京・オリセンで 8/17, 18

書文協書写書道専修学院本部教室の夏の特訓の一環として毎年恒例の宿泊特訓があります。今年も 8 月 17 日、18 日の両日、東京・代々木のオリンピック記念青少年総合センター（オリセン）で行われ、65 人が参加しました。このころは猛暑が最高に達しており、東京でも体温並みの温度予報が出され、熱中症の警戒が呼びかけられていました。

参加者の多くは、17 日の夜はオリセンの宿泊棟に泊まり込み、夕食後も遅くまで書写書道に取り組みました。18 日は午後半ばまで特訓に励んだ後、席書大会が開かれました。東京地区での席書大会は、専修学院青梅教室での開催を含め 3 回目。それでも 30 人が参加、保護者も応援に駆けつけました。なかなか過密なスケジュールですが、事故なく全員元気に終了しました。

来年度はゴールデンウィーク中の実施を検討中

生徒たちは 4 人グループの合部屋に宿泊しました。泊まり慣れない子供は別棟に家族が泊まって励ますなどの騒ぎもありましたが、寝食、練習を共にして皆な打ち解けた雰囲気でした。

来年 2020 年は、東京オリンピック・パラリンピック開催の影響か、夏はオリセン施設に余裕がなく、来年度の宿泊特訓は中止するか、ゴールデンウィークに実施することが検討されています。今回も遠距離から参加した生徒もいましたが、遠方で専修学院生でない方も余裕があれば参加できますので、書文協本部に問い合わせして下さい。

